

# 心理学総論特論 研修会レポート

心理学部 講師  
修士（学術） 河合雅代

研修会では、前回、前々回に引き続き臨床心理士・公認心理師試験対策の授業方法を教えていただいた。

最初に、総長先生から、講師は、学生に必要なことだけを話すようにとお話があった。それは、学生が混乱しないように最小限の表現にとどめ、学修に従事できる環境を整える事である。今回の研修では、対策講座の方法をきちんと身に着けることを目的として、研修会に臨んだ。方法は以下のとおりであった。①問題文を読む。②解説文を読む。③設問と解説を一つずつ読み、大事な点を理解する。この時、講師は、わかりにくい単語の説明をする。④30～40秒の時間をかけて暗記する。⑤各設問に対して同様に読み、暗記することを繰り返す。⑥最後に全体を理解し暗記する時間を5分ほど設けて一問が終了する。⑦最後に、全問題が終了したのち、20分間の時間を取り、復習と暗記を再度行う。これが問題に取り組む流れであった。暗記の重要性は何度も総長先生からご指導を頂いていた通りである。繰り返し繰り返しおこなうことが肝要である。帰宅後、教科書を開いてみる、翌日の朝食時に読む、機会があれば目にする。このように何度も記憶を繰り返すことで忘却曲線は緩やかなカーブとなる。資格試験に臨む際の知識の定着方法として、非常に効果的だと感じた。今回新井先生は、総長先生のご指示で暗記の時間を問題文の長さにより変更され、確実に学生が覚えるようにされていた。通り一遍ではなく、臨機応変な対応も必要だと感じた。学生が理解できるところまで、時間を取り、丁寧に導いていく。学生が暗記をする際、残り時間を伝え、目安を示す。それは集中して暗記に励む学生にとって、よい意味の緊張感を与え、とても分かりやすい声掛けだと思った。また、何度も、繰り返し、この方法を行うことで理解できる、満点が取れると講師の先生が、学生に伝えておられた。研修会の中で総長先生の言われている言葉である。学生にとって、迷いがなくなり、さらに学修に邁進できると感じた。この方法で、テンポよく問題を解くことができ、講義の中でも学生たちは満点を取ることができた。研修会に参加している我々もとてもうれしかった。

総長先生は、常に学生、しかも高校生時代勉強が不得意であったと思っている学生の立場に立たれ、その学生たちが「確認テストで満点となるような」講義となるようにと発言されていた。これは研修会やミーティングでも言われている事であり、本学の基本姿勢であると感じる。

すべての学生が夢を実現できるように、講義の中で実践していきたいと思う。

ご指導いただきましたことを、心から感謝申し上げます。